平成１６年度広島県道徳教育実践研究指定事業
第７回定例報告会　実践報告
「明朗誠実な心を育てる道徳教育」

呉市立阿賀小学校　　揚野　恭子

１　本学校の概要

本校は呉市の南に位置し，周りを海や山に囲まれた市街地である。休み山トンネルを抜ければ呉市内に１０分，音戸方面に向かう県道と交差しており１日中交通量の多いところである。多くは町内から市内・外へ通勤される人がほとんどであるが，校区の南の阿賀湾で牡蠣の養殖をはじめとする漁業に従事している人も多く，北の山間部では自給の野菜などを作っておられるところもある。一方，「学園地区・阿賀」として，呉大学，呉工業高等専門学校，呉市立呉高等学校等が隣接しており，各学校と連携をとりながら授業交流など様々な交流を進めてきている。

また休山新道の建設に伴い，平成１２年，現在の場所に移転し，平成１３年には延崎小学校と統合した。新しい校舎は「人に優しい校舎」「バリアフリー」の設備やオープンスペースを兼ね備えた校舎として児童に自慢の校舎となっている。

このような環境の中で，地域の方は学校に対する関心や期待が大きく，街頭指導やボランティア活動などにも積極的に参加してくださる。地元の方だけではなくなっているにもかかわらず「自分達の町」という愛着が強く，祭などの地域の行事や子ども会活動なども活発なところである。

平成１６年度の児童数は，１１月８日現在６５６人，（２２学級）教職員３４名である。

２　児童の実態

本校児童は，明るくのびのびと生活する児童が多く，新しいことや興味を持ったことには進んでかかわりをもち，行動していく積極性がみられる。ただし，その背景には自分の価値に基づく興味本位の言動に左右されやすい傾向があり，自らを見つめて，よりよく生活していこうとする意欲が未だに高められていないこともある。したがって規範意識が高いとはいえず，今の生活が多くの人の支えによって成り立ち，そのおかげで平穏に過ごせていることに思いをめぐらすことができていない。そのため，ちょっとした行き違いから不平不満となって口や態度に出てしまい，乱暴な言葉づかいをしてしまうということが少なくない。

また，仲のいい友達や関係の深い人とはかかわっていこうとすることができるが，そうでない場合は無関心なことが多く，多くの人とかかわろうとしない傾向がある。慣れた環境の中で，自分が気に入ったものと楽しく過ごせればよいという意識で行動するため，人間関係が固定化し広がっていきにくい実態もある。

3　研究主題

心豊かによりよく生きようとする子どもの育成

～自分を見つめ，人とかかわり合いながら深める「道徳の時間」の展開～

（1）研究主題の基本的な考え方

①心豊かにとは… 共感できる心

美しいものを見たり，素晴らしいものにふれたとき，人は心動かされ感動するものである。

一つのことから，いかに多くのことを想像し広げることができるか。これが豊かな感性で，人とのかかわりにおいても同様なことがいえる。人が困っているのか，助けてほしいのか，あるいはそっとしておいてほしいのか。自分以外の他者をどれだけ理解でき共感できるか，そういう柔らかい心を育てていくことが，豊かな人間関係を築き自分自身も豊かに生きることにつながっていくと考える。

②よりよく生きようとするとは…自分を見つめる

人は誰でも本来「よりよく生きたい」という思いをもっているものである。しかしどうすることが「よりよいこと」なのか分からない。また，「よりよく生きたい」と思っていても自分にゆとりがないときなどには，その目標を見失いがちになるということもある。あるいは，「よりよく生きているつもり」でいても，周りから見ればそうでないこともある。そのこと自体に気付かないでそのまま過ごしていくことはまったく逆の生き方になってしまう。そのことに気が付き，少しでも「よりよく生きたい」と努力するところに道徳性が存在し，人間としての値打ちがあると考える。

低学年の段階では，何がよいことで，何が悪いことなのか，はっきり教えることが必要になってくる。この時期，多くは「他律」の段階で，親や教師のひとことで行動が決められることが多いとされる。「がんばったね」「いいよ」という承認や，誉められることが「よいこと」という道徳的価値の基本を身につける段階である。したがって基本的な価値を，どうしてそのことが大切なのかしっかり理解し，そうすることが心地よい，しなかったら気持ちがすっきりしないというようなことを実感をもって体験していくことが大切になってくる。このような望ましい行動様式を目指そうとする意欲と実践力を育てていくことが「よりよく生きよう」とすることにつながっていくと考える。

低学年の重点目標

・節度ある生活態度を身に付け，よいと思うことを進んで実行しようとする。

・進んで手つだい，人の役に立とうとする。【1－（1）・1－（3）】

中学年になると，自分と他人の違いが少しずつわかってきはじめ，自分と共通する部分を共有することで仲間作りをしたりする。他人に認められたい，自分という存在を客観的に意識するようになる。そんな中で望ましい行動をしようとする意欲も高まってくる。一方で「～しなければならない」ということは分かっているが，欲求やためらいが先になって，実際の生活場面では実践できないということも出てくる。したがって欲求と望ましい価値とのあいだでしっかり迷いながら，どうすることが「よりよく生きる」ことになるのか自分自身で考えるようにしていくことが大切になってくる。

中学年の重点目標
・自分でできることは自分でやり，よりよい生活をつくろうとする。
・お互いが助け合って進んで協力しようとする。【1－（1）・2－（3）】

高学年では，自分以外の集団や社会にも目が向くようになり，物事を批判的に見たり判断力も高まってくる。また高学年という立場と自覚から，人の役に立っている，集団の中で自分が必要とされているという実感を得るようにもなってくる。そんな中で，自分の存在を肯定的にとらえるとともに，「～する方がいい」とわかっていながら，時には実践できない自分もあることを自覚するようにすること，また，集団や社会の一員としての自覚を育てるとともに，より高い道徳的価値にも気付くようにし，よりよい自分を目指すような意欲を育てていくことが大切である。

高学年の重点目標
・自らのよさを積極的に伸ばし，目的をもった生活をつくろうとする。
・集団や社会に主体的にかかわり，自分の役割を自覚し責任を果たそうとする。
【1－（6）・4－（1）】

（2）「自分をみつめ，人とかかわり合いながら深めていく『道徳の時間』」とは

「道徳の時間」の特質をふまえ，特に次の３点にポイントを置いて展開を考えていく。
①道徳的価値を自覚できる時間
②他者理解（資料の人物に共感・自分以外の考えに共感）ができる時間
③自分を見つめる（自己理解・自己の課題の自覚）ことができる時間

①道徳的価値の自覚ができる時間

資料の人物の行為の背景にある思いや気持ちに触れること，そして人それぞれの考えを出し合う中で，よりよく生きる素晴らしさや，また，難しさも実感するであろう。人間としてよりよく生きるとはどういうことなのか，望ましい価値に気付くことが，道徳的価値の自覚である。

②他者理解（資料の人物に共感・自分以外の考えに共感）できる時間

資料の人物がどういう気持ちでその行為を行ったのか想像し，お互いの意見をかかわり合わせて考えていく中で，その行為の背景にある人の気持ちに触れることができる。自分の経験したことを，指導において気付かせることによって，それは納得や共感を生み，より自分の持つ価値とかかわらせていけるであろう。みんながそうであれば確信になり，その価値はより深く心の中に刻み込まれていくであろう。逆に自分の経験でないことであれば，人の意見から「そうなのか，そういうこともあるのか」という新しい価値に出会うことになる。そして自分以外の存在によって自分を知ることにもつながっていく。

ア資料提示の工夫

・劇化（Ｔ１・Ｔ２で役割読み）
・紙芝居・パネルシアター
・デジパネ・ビデオ
・読み聞かせ

などで資料の場面状況をわかりやすく提示し考えやすくする。

イ展開での工夫

・展開前段での資料の人物の気持ちを考える。
「～の場面で，～したのはどういう気持ちからでしょう？」
「～はどんな気持ちでしょう」
「～はなんと言っているでしょう」
などの発問で人物にしっかり共感するようにする。
・自分の考えをはっきり持つようにする。
自分だったらどうするだろうか，名前プレートなどを使い自分の考えや立場をはっきりさせるようにする。そのためしっかり迷う場面を仕組む。
・個の思いを集団に発信し，かかわりを仕組む。
・友達の考えをしっかり聞くようにする。
・役割演技や動作化を取り入れる。
具体的な動きで，その状況を再現したり，そのときの気持ちを考えるようにする。

またそれを見ているみんなに思いを聞く。

・書く活動を取り入れる。
中心発問や自己の振り返りなどでワークシートを用い，自分なりの思いをしっかり書き自分の考えや思いを出し切るようにする。

③自分を見つめること（自己理解・自己の課題の自覚）ができる時間

自分を見つめることは道徳の時間のすべての過程で行われることであるが，特に展開後段でこれまでの経験を想起したり，資料の中の人物になって手紙を書いたり，感想を書くことなどを通して，今までの自分を深く見つめる。その中で自分を承認したり，あ

るいは課題を見つけたり，「こうありたい」という次への意欲を持つことにつながっていくことになる。それは他から押し付けられたり強要されるものではなく，自らの意志によってなされることが肝要である。

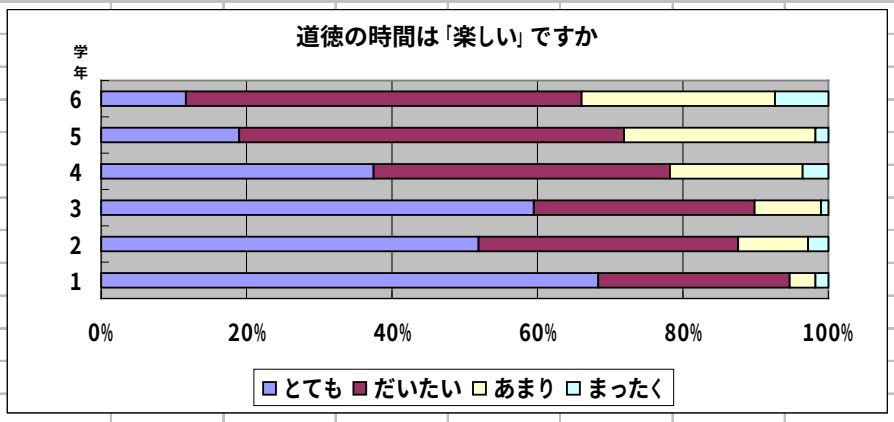
　すべてこれらの活動は自分一人では限界があり，人とのかかわり合いの中でこそ生まれてくる認識である。つまり資料とかかわり，資料の中の人物とかかわり，友達の意見とかかわり，教師とかかわり，何より道徳的価値とかかわり合っていくことで，他者の存在を意識し，自分の存在そのものを自覚することにつながってくるのである。そういう「道徳の時間」をつくっていくことが「心豊かによりよく生きようとする子どもの育成」につながっていくと考える。

４　児童の「道徳の時間」に対する意識

第２回「道徳の時間」に関する意識調査【平成１６年１０月２６日実施】の結果から

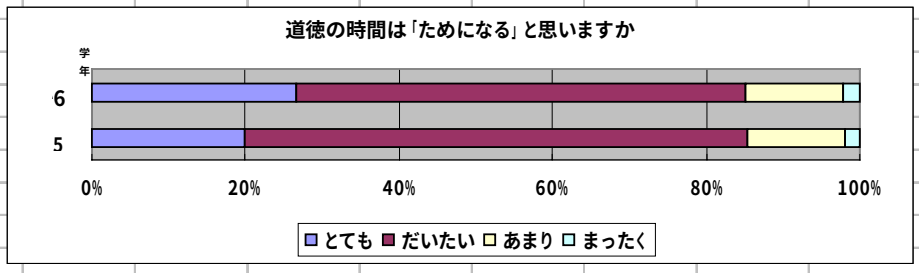
道徳の時間は「楽しい」ですか

学年	ア　(とても)		イ (だいたい)		ウ (あまり)		(まったく)		
	合計	%	合計	%	合計	%	合計	%	
1	78	68.4%	30	26.3%	4	3.5%	2	1.8%	114
2	58	51.8%	40	35.7%	11	9.8%	3	2.7%	112
3	59	59.6%	30	30.3%	9	9.1%	1	1.0%	99
4	43	37.4%	47	40.9%	21	18.3%	4	3.5%	115
5	21	19.1%	58	52.7%	29	26.4%	2	1.8%	110
6	11	11.7%	51	54.3%	25	26.6%	7	7.4%	94
合計	270	41.9%	256	39.8%	99	15.4%	19	3.0%	644



道徳の時間は「ためになる」と思いますか

学年	ア (とても)		イ (だいたい)		ウ (あまり)		エ (まったく)		
	合計	%	合計	%	合計	%	合計	%	
5	22	20.0%	72	65.5%	14	12.7%	2	1.8%	110
6	25	26.6%	55	58.5%	12	12.8%	2	2.1%	94
合計	47	23.0%	127	62.3%	26	12.7%	4	2.0%	204



それぞれの主な理由

	とても・だいたい楽しい	あまり・まったく楽しくない
1年	・なんのお話か楽しみ。 ・先生の話がおもしろい。 ・発表が楽しい。	
2年	・どんなお話か楽しみ。 ・先生が来てくれてうれしい。 ・発表できる。 ・劇（役割演技）がおもしろい。	・言うことが思いつかない。 ・お話を聞くのがいや。
3年	・主人公の気持ちになって自分の気持ちを言えるのが楽しい。 ・みんなの気持ちがよく伝わるし分かる。 ・発表できるようになった。	・もっと劇（役割演技）がしたい。 ・ちょっと疲れる。 ・難しい。 ・もっと発表したい（できない）。
4年	・自分と違う意見を聞くのがおもしろい。 ・自分の考えを自由に言える，間違いがない。 ・いろんな話があっておもしろい。	・なかなか思うことが思いつかない。 ・なんといって発表したらいいのかわからない。 ・きらい。 ・話が長い，あきる。
5年	・何でも言える，いろいろ思い浮かぶ。 ・登場人物の気持ちが分かって楽しい。 ・人の気持ちになって考えるのが楽しい。 ・いろんな気持ちになったり変わったりするのが自分でも楽しい。	・発表できない。 ・もうちょっと分かりやすく教えて。 ・もう少し現実的な話の勉強がしたい。もっと身近で自分のこととして考える内容がいい。 ・同じ人が発表，みんなが発表できような授業に。
6年	・答えがなく自分の考えが言えるのがいい。 ・難しく考えなくていいから好き。 ・友達の意見と自分の意見を比べあわすのが楽しい。 ・みんなそれぞれにちがった意見があってそれを聞くのが楽しい。 ・自分の気持ちがいつもより素直に言える。 ・資料をもとにいろいろなことを考えるのが楽しい。 ・自分の今までが反省できていい。	・みんな手を挙げないのが残念，みんが考えていることをもっと知りたい。 ・ねむたくなる ・読んで自分の思いをいうだけだとねむくててたいぎい。 ・興味のない話は楽しくない。 ・「どう思いますか」と同じ事ばかり聞かれるのは飽きる。 ・聞かれてもどう答えていいか分からい。あてないで。

・前回よりポイントが下がっているが「楽しい」ととらえている児童は約８0%である。

・学年が上がるにつれて楽しいと感じなくなっている。
・「楽しいか・楽しくないか」は「発表できるか, できないか」に大きくかかわっている。 楽しいと感じている児童は, 自分の意見や考えをスムースに出せる児童である。自分の 意見を出しにくい児童は, どういっていいのか分からない, または考え自体を持ちにく いようである。表現力の問題と共感できないという二つの問題があるように思う。前回 は言えない理由の中に「恥ずかしい」というのがあったが今回は無かった。
・低学年は，資料提示の楽しさ・バリエーションの豊富さに心惹かれているようである。
・中学年は, 資料の話そのものが楽しい（いろんな話・出来事を知る楽しさ）と感じてい る。また「発表できる」ということが楽しい。「もっと発表したい」という学習過程に対する思いも出てきている。
・高学年は，自分の考えと人の考えの違いに気付いた児童は，それが楽しいこととして受けとめられ，「もっと知りたい」という次の段階に行こうとしている。または「楽しくない」と答えた児童の中にも「もっと知りたいのに知れない」という不満の形で追求していきたいという思いを出している。 逆に，人の考えに興味は無くかかわろうとしない者が出てきたのが問題である。もう一つ，授業中目指す道徳的価値の理解がむしろ早い児童に「あまり楽しくない」ととらえる児童がいたのが気になる。「分かりきったこと・たてまえ」と感じているのだろうか。自分とかかわらせて考えていく取り組みが不十分なのであろうか。課題である。

・「道徳の時間」が「ためになるか・ならないか」にかかわっては，８６％が「ためになる」 と肯定的にとらえている。５年生は前回より４％高まり，６年生は逆に５％下がってい る。「楽しくない」と答えた児童でも「ためになる」と評価はしており，生活の場面で思い出したり，自分を振り返ったりするときの基準になっているようである。

・児童一人一人の意識が個別に把握できたので，個人的に継続して取組んでいくことが必要である。

５　明朗誠実な心を育てる取り組み

明朗誠実とは

（低）うそをついたりごまかしたりしないで，素直に伸び伸びと生活する。【１－（４)】

（中）正直に，明るい心で元気よく生活する。　【１－（５)】

（高）誠実に明るい心で楽しく生活する。　【１－（４)】

本校児童の実態として，明るく伸び伸びと生活していることが挙げられるが，ここでいう「明朗」であるかというと少し不十分なところがある。それは自分が楽しい気分でいられるとき，あるいはふれたくない部分にはかかわらないようにしているときであって，面倒なことや都合の悪いことにはかかわろうとしない，曖昧な態度でごまかしている面が見受けられるからである。

本来困ったとき，窮地に立たされたときこそ，この心が試されるのではないか。そういう意味で振り返ってみると，端に明るく屈託のない元気な様子だけでは明朗とはいえない。ごまかさずプラス思考で過ごそうとする心，そこから逃げないで正面から取り組み誠意を持ってあたろうとする態度とが合い重なったところに明朗誠実な心があり，その結果得られる心こそが明朗な心ではないだろうか。

そこで今回は６年生の「手品師」の実践で検証してみる。

６年「手品師」の取り組み

うではいいがあまり売れない手品師がいた。生活は苦しくいつか大劇場で活躍できることを夢見ていた。そんなある日，道でしょんぼりとした男の子に出会い，手品を見せる。すると男の子はすごく喜び元気を取り戻す。そこで手品師は明日も手品を見せることを約束した。ところが，その夜友人からの電話で，大劇場への出演以来の話が舞い込んでくる。待ちに待っていたチャンスがやってきたのだが，さっきの男の子との約束を思い出す。夢にまで見た大劇場での出演か，それとも男の子との約束を守るべきか迷うが，明日は大切な約束があるからと断り，次の日，男の子の前ですがすがしい気持ちで手品をして見せた。　（出典　　文溪堂デジパネ　５年）

主題名　自分に誠実に

ねらい　いつも誠実に明るい心をもって生活しようという心情を育てる。

この資料で，誠実という価値に気づくようにするにはどこを中心に考えていけばいいだろうか。

・「大劇場に行くか」「男の子の方に行くか」で迷う場面

・「男の子の方に行く」ことを選び、晴れ晴れとした気持ちで手品をしている場面

どちらを中心発問にするべきか悩んだ。結局前者の「迷う場面」で，自分だったらどうするかと立場をはっきりさせ，お互いの理由を言い合う中で男の子の方に行くという誠実さが出てくるであろうと考え，「迷う場面」を中心にした展開を考えてみた。また資料理解が十分できるよう映像による資料提示(デジパネ)を試みた。

以下３クラスの実践をまとめてみた。

	指導過程	児童の反応	成果と課題
2 組	1手品をみる。 2資料を視聴し話し合う。 **（資料は切らず一括提示）** **（中心発問での場面絵は使用しない）** ○ どんな手品師でしょう。 ○ 手品師が出会った男の子はどんな様子でしたか。 ○ 男の子と約束した手品師はどんな気持ちだったでしょう。 ◎ **手品師は男の子の方へ行くべきかそれとも大劇場へ行くべきでしょうか。** ○ 翌日男の子の前で手品をしている手品師はどんな気持ちでしょう。 3自分を振り返る ○ 今までごまかしたり，約束を破ったりせずよかったことがありますか。 4先生の話を聞く。	ネームプレート使用 **男の子の方へ…３３名** ・約束していたから。 ・男の子を喜ばせたい。 ・もやもや。 **大劇場の方へ…０名** （行かない理由として） ・大劇場でやっていても，男の子のことが気になって失敗するかも。 ・もやもやする。 ・またチャンスはある。 ・男の子が喜んでくれてうれしい，よかった。 ・自分もうれしい。 ・すっきりした。 ・自分を振り返った経験はでなかった。	資料は切らず一括提示。そのためかどうか，悩む場面では，３３対０で葛藤場面が仕組めなかった。大劇場に行かない理由として，男の子への不実さでもやもやしていることをあげている。男の子の方へ行く子の中にも大劇場のことが気になってもやもやすると述べた。ここで「どちらがもやもやするだろう」ともう一度切り返すことでねらいに迫れば良かった。予想外の反応で指導者にゆとりなし。次の発問でねらいに迫る発言が聞かれたが，どれだけ共感することができただろうか資料と生活をつなぐ手立てを研究したい。
1 組	1手品をみる。 2資料を視聴し話し合う。 **資料は切らず一括提示** **中心発問で手品師の様子が分かる場面絵を提示する。** ○ どんな手品師でしょう。 ○ 手品師が出会った男の子はどんな様子でしたか。 ○ 男の子と約束した手品師はどんな気持ちだったでしょう。 ◎ **手品師は男の子の方へ行くべきかそれとも大劇場へいくべきでしょうか。** ○ 翌日男の子の前で手品をしている手品師はどんな気持ちでしょう。 3自分を振り返る ○ 今までごまかしたり，約束を破ったりせずよかったことがありますか。 4先生の話を聞く。	ネームプレート使用 **男の子の方へ…２１名** ・先に約束したから。 ・男の子がかわいそう。 ・自分しかいない。 ・チャンスはまたある。 **大劇場の方へ…１０名** ・自分の夢がかなうチャンス。 ・売れっ子・お金持ちになる。 ・暮らしが楽になる。 ・男の子がこんなに喜んでくれるとは。うれしい。 ・約束守って良かった。 ・自分を振り返った経験はあまりでなかった。	このクラスでは葛藤になるかどうか，期待と不安で臨んだ。結果は２１対１０で何とか2派に分かれたが，圧倒的に男の子派。しかしその理由は，男の子がかわいそうとか男の子の逆境を察してからの意見であり，理由が「思いやり・親切」に流れねらいがぶれてしまった。結果，葛藤する価値が２－②と１－②になっていった。次の発問では前のクラスと似たような意見が出た。

3 組	１手品を見る。 ２資料を視聴し話し合う。 **資料葛藤場面で切って提示中心発問での場面絵を具体的に葛藤する内容が描かれているものを提示する。** ○　どんな手品師でしょう。 ○　手品師が出会った男の子はどんな様子でしたか。 ○　男の子と約束した手品師はどんな気持ちだったでしょう。 ○　友人からの電話を受けたとき手品師はどんなことを考えたでしょう。 ◎　**翌日男の子の前で手品をしている手品師はどんな気持ちでしょう。** ３自分を振り返る ○　今までごまかしたり，約束を破ったりせずよかったことがありますか。 ４先生の話を聞く。	**ネームプレートは使用せず意見を言い合う。** ・迷っている。 ・男の子の方へ行くか，それとも大劇場に行くか。 ・約束したから男の子の方に行く。 ・男の子を喜ばせてあげよう。 ・大劇場へ行く。大勢の人に喜ばれる。 ・もうチャンスがないかも ・男の子には後から謝ればよい。 ・約束を守ってよかった。 ・またチャンスはある。 ・心がすっきりした。 ・友達の約束かテレビか迷ったけど友達のところへ行ってよかった。 ・うそをついてどうしようか迷ったけど謝った。	２つの実践から今度は資料を切って提示しネームプレートは使用せず「電話を受けたとき手品師はどんなことを考えたか」と発問を変えてみることにした。資料を切って提示したのはよかった。どちらに行くか，前の２つのクラスに比べて「大劇場派」が増えた。結果がわからなかった方が，今の自分の価値観で考えられた。それぞれの立場で活発に意見は言うがお互い反論しあうという討議には至らなかった。ねらいに迫るには，迷ったが決心したところ，その決定の要因になったものが何であるのかおさえていく必要があった。「どっちがすっきりするだろう」とねらいに向けての話し合いに変えていく指導者の切り込みが必要であった。自分の振り返りは予想以上によく出された。（このクラスの実態によることが多い）

３つの実践を終えて

実態が違えば同じ展開でも流れが変わってくるとはいえ，実態に応じて，いかにねらいに迫っていけばよいのであろうか。意図的指名をどのように仕組むか（どの子を１番に指名するか）によって，その後の流れが変わってくることは周知のことであるが，資料提示の仕方によっても思考の流れが大きく変わってくることを改めて感じた。

「手品師」の誠実さは，「男の子との約束を守った」にとどまっていては本当のねらいに迫ったといえないことが分かった。なぜなら，「男の子がかわいそう」「一人ぼっちでさみしそう」「自分が行かなくては誰がこの男の子を励ましてやれるのか」など，男の子を思う優しさや「約束したのだから」約束は守らなければならないという義務感からの思いは引き出せるが，自分自身に対する後ろめたさは出てこないからである。「男の子が一人ぼっちじゃなかったらどうなのか」「元気な男の子だったら行かないのか」と切り込むと微妙に意見が変わった。それでも自分に対する後ろめたさは出てこなかった。

それならば，どこで自分の後ろめたさ，弱さ，誠実に行動することの難しさを意識することになるのだろうか。「大劇場に行ったとき」であろうか。しかし，やはり男の子に対する後ろめたさの域を出ないのではないか。実は，どうするべきなのか迷った時点で「両方うまくやることはできないものか」という欲張りな心，「自分の夢も，男の子にもうまくやれる方法はないか」と考えた心こそ「不実な自分」である。本当に男の子のことを考えたのであれば迷う必要はなかったのである。その心に気が付いたとき初めて「男の子の方に行かなくては」と心から思えたのではないか。そう考えると「男の子の方へ行くのがよいか，大劇場の方へ行くのがよいか」とききき，それぞれの理由だけを訊いていたのでは，迷う自分の不実さには気付きにくい。

むしろその後の「迷った末，男の子の方へ行くと決心したのはどんな気持ちからでしょう」あるいは「友人からの電話をきっぱりと断った手品師は，どんな気持ちから断ったのでしょう」となげかけたらどうであろう。その次の切り返しとして「それならば，どうして最初から男の子の方へ行かなかったのだろう」「大劇場で手品をしていたとしたら，手品師は満足しているだろうか」と問いかけ，自分の夢のために男の子との約束を破ろうとした不実な自分に気付かせるようにできないだろうか。

手品師は，自分と向き合うことができたからこそ不実な自分に気が付くことができたわけである。そして迷い，不実な自分を知り，それを乗り越えたからこそ，すがすがしい気持ちで，翌日男の子の前で手品をすることができたのである。この手品師の気持ちによりそうことで本当の誠実さにふれることができるのではないか。

「誠実」が「１　主として自分自身に関すること」に示されている意義は深いものである，と改めて感じることができた取組みであった。

道徳学習指導案

指導者　Ｔ１　北村　たか子
Ｔ２　揚野　　恭子

１　日　　時　　平成１６年６月２２日（火）　第５校時
２　学　　年　　第６学年３組　　（男子１４名　女子１８名　計３２名）
３　主題名　　「自分に誠実に」　【１－（４）正直誠実・明朗】
４　ねらい　　いつも誠実に，明るい心を持って生活しようとする心情を育てる。
５　資料名　　「手品師」　　（出典　web 道徳デジパネ５年生　文溪堂出版）
６　主題設定の理由

○　本主題は高学年の指導内容１－（４）「誠実に，明るい心で楽しく生活する。」をもとに設定したものである。誠実とは，人がつき合ううえで，ごまかしやうそをつかないことばかりでなく，自分の良心に従って精一杯努力したり真心を持って行動することである。うそやごまかしをしないで正直に行動することは，周りの人たちにとっても，また自分自身にとっても気持ちの良いものである。人と人とのよい関係を築くためには，誠実さが必要である。 しかし，人は，誠実に行動することが大切であると理解しているが，自分の弱さから，本当のことが言えなかったり利害にとらわれて誠実な行動ができなかったりする。うそやごまかしで人は欺けても，自分自身は偽ることは出来ない。そこで，人間としての弱さを認め，それを乗り越えて自分に誠実に生きることが，明るい生活につながっていくことを気づくようにし，人にも自分にも誠実に明るく生活していこうとする意欲を育てていくことが大切であると考える。

○　本学級は，明るく素直でのびのびした児童が多い。休憩時間には気のあった友達と一緒に楽しく遊んでいる。また，困っている友達に声をかけ，手助けするなど思いやりのある優しい面もある。しかし，仲のよい友達との関係を気にするあまり，周りの考えに流されたり，好き嫌いや損得で行動してしまったりする言動が見られる。子ども達は，うそをついたりごまかしたりしてはいけないことはよく理解している。しかし，物が壊れたり，花が折られたりした時，自分から名乗り出る児童は少ない。

また，家庭でも怒られるのが嫌で，学校での出来事についてついうそをついてしまう児童もいる。そこで，児童が自分にどれだけ正直に生活しているか，事前に心のノートを活用し調べてみた。「正直である」が，１８人，「正直にできない」が，１３人という結果であった。また，帰りの会では，振り返り「Ｈｏｔ」カードを使って，自分の行動を振り返り反省するようにしている。少しずつではあるが，自分や人の気持ちを考えた行動ができるようになってきている。

○　本資料は，大劇場に立てる日を夢みる手品師が，小さな男の子との約束と，夢が実現しそうなチャンスとの間で葛藤するという話である。主人公である手品師が悩み抜き決心するまでの心の葛藤をしっかり見つめることで，男の子との約束を果たし誠実に行動した手品師の満足感に気づくようにしたい。

指導にあたっては，導入で，手品を演じて学習意欲を喚起し，資料への興味・関心を高めるための雰囲気作りをしていきたい。展開前段では，手品師も普通の人間である。ゆえに，「大劇場に出たい。」「最後のチャンスを生かしたい。」という気持ちがあったと同時に「男の子との約束が大切」「男の子の喜ぶ顔が見たい。」といった気持ちももっている。そんな手品師の心の葛藤を話し合い，自分の考えを持つようにする。自分の考えを発表したり，友達の思いを聞いたりすることによって，考えを深めたり，広めたりして，自分を見つめ直してほしいと思う。これは，本校の研究主題「自分を見つめ，人とかかわり合いながら深める『道徳の時間』の展開」につながる。この過程を通して，手品師の気持ちに共感しながら，ねらいとする価値に迫りたい。

7　指導過程

段階	学習活動と主な発問	児童の意識の流れ	指導上の留意点(○)と評価(※)
導 入	1　手品を見る。 ○　手品を見てどんな気持ちになりましたか。	・　楽しい気持ち。 ・　わくわくする。 ・　明るい気持ち。	○　手品を見ることで,資料への興味・関心を高める。 （手品・ＢＧＭ）
展 開 前 段	2　資料「手品師」を視聴して話し合う。 ○　どんな手品師ですか。 ○　手品師が出会った男の子はどんな様子でしたか。 ○　男の子と約束した手品師は,どんな気持ちでしたか。	・　大劇場に出たいな。 ・　有名になりたい。 ・　しょんぼりとしている。 ・　元気がない。 ・　こんなに喜んでくれるとは。 ・　約束は守るよ。 ・　約束したから守るよ。	○　場面の状況をしっかり把握するために,デジパネを視聴する。 ※　場面状況を把握できたか。
展 開 前 段	◎　友人からの電話を受けたとき,手品師はどんなことを考えたでしょう。 ○　翌日,男の子の前で手品をしている手品師はどんな気持ちでしょうか。ワークシートに書きましょう。	・　自分に正直でいたい。 ・　悲しませるのはかわいそう。 ・　男の子に裏切られたと思われるのは嫌だ。 ・　お金がもうかる。 ・　自分の夢がかなう。 ・　後から謝ればよい。 ・　友達に悪い。 ・　約束を守ってよかった。 ・　またチャンスはあるさ。 ・　心がすっきりした。	○　児童の考えを類型化して板書することによって,自分の考えをはっきりと持つようにする。 ○　こうすれば両立するという方法論にならないように配慮する。 ※　誠実に行動することの満足感を感じ取ることができたか。

展開後段	3　自分を振り返る。 ○　今まで，ごまかしたり，約束を破ったりせずよかったことがありますか。	・　兄のおもちゃを壊して謝った。 ・　財布を拾って交番に届けた。 ・　自分の分担でない掃除場所も掃除してあげて気持ちよかった。	○　今までの自分について見つめる。 ※　自分について考えることができたか。
終末	4　教師の話を聞く。	・　テストの答えをつい見てしまった児童の話をする。	※　明るく誠実に生きていこうとする気持ちが高まったか。

8　準備物

手品道具，ＢＧＭ,，デジパネ，ワークシート

9　事後の取り組み

誠実に行動した人の話を新聞記事や本で紹介したり，約束を果たした児童についても帰りの会などで取り上げたりしていきたい。

授業記録

時刻	T・C	発　言　内　容　他
13:50	T1	今日は，素敵なスペシャルゲストをお招きしています。拍手！
	T2	私はとても手品が上手いの。今日は皆さんに，特別な手品をお見せします。
	C	＊手品①（紐）手品②（リング）
13:54	T1	拍手
	C	手品を見て，どんな気持ちになったかな？
	C	びっくりした。
	C	すごいなあ。
		たのしかった。
	T1	今日は手品師のお話を勉強します。目で見て耳で聞いてしっかり勉強してください。
13:55		（デジパネ視聴）
14:00	T2	今日出てきたのはどんな手品師でしたか。
	C	夢は大劇場に出たい。
	C	売れない手品師。
	C	腕はいいけど売れない。
	T1	他のことでありますか。
	C	食パン買うのに一苦労だった。
	T1	一苦労とは？
	C	食パンが買えないくらい貧しい。
	T1	生活が苦しいということだね。
	T1	男の子の様子はどんな様子？
	C	すごくさびしそう。
	C	元気がなかった。
		男の子のお父さんが死んでさみしい。
	T1	男の子と出会った手品師は，どう思ったでしょう。
	C	明日も手品を見せてあげたい。
	C	手品で元気になってくれてよかった。
	C	他の手品を見せたら，もっと喜んでくれる。
	C	どうせひまなんだから明日も来よう。
	T1	友人から電話がかかってきたとき，手品師は，どんなことを考えたでしょう。
	C	迷っている。
	C	約束したんだから，男の子の約束を守らないといけない。
	C	男の子の笑顔を見るだけでも楽しい。
	T1	迷っている。どんなふうに？

	C	大劇場で夢をかなえるか。男の子との約束を守るか。私は，男の子と約束。
	C	男の子。また，明日も喜ばせてあげようと思う。
	C	金はもうかるけど，男の子の方に行って元気づけたい。
	C	大劇場は，人がいっぱいいるから。
	T1	大劇場に行ったらどう？お金もうかるね。
	C	男の子の方。
	T1	ボロボロの服を着ないといけないよ。
	C	いい。
	C	また，見せてあげればいい。
	C	大劇場。大勢の人に喜ばれるし，お金ももうかる。
	C	大劇場。その時限りの夢だから。
	C	大劇場。もうチャンスがないかも。
	C	大劇場。その時しかない。男の子には，また会える。
	C	大劇場。観客が「もう一度見たい。」と言ってくれるかも。
	C	男の子も連れて行けばいい。
	C	男の子。早い者勝ち。
	T1	先に約束していたということだね。
	C	面白く，元気を出させるのが手品師。男の子の方に行く。
	C	自分が行かないと，男の子はもっとさみしくなると思う。
	C	男の子が手品にあこがれていたから，行かなかったらさみしい。あこがれがなくなってしまう。
	C	男の子は，初めて手品を見たのかも。手品師にあこがれているかも。
14:16		男の子の喜びをむだにしてはいけない。
	C	大劇場に行くと思う。ひまができると，また見せてあげられるから。
	C	
	C	大劇場が終わった次の日に男の子に会えるかも。わかってもらえる。
	T1	
	C	男の子との約束を守って，手品師もうれしい。
14:24		さあ。手品師は，どうしたでしょう。続きを見てみましょう。
	T1	男の子のほうに行ったと思う。
		（デジパネ視聴）
	T1	男の子の方へ行ったんだね。今，手品師は，男の子の前でどういう気
	C	持ちで手品をしているか，プリントに書いてください。
	C	発表してください。
		男の子が喜んでくれてよかった。
		夢をかなえたかったけど，
		男の子の笑顔が見れてよかった。

	C	男の子の笑顔がまた見れてよかった。
	C	男の子の笑顔がまた見れてうれしい。
	C	元気になってくれてよかった。
	T1	自分のことで考えて。今までに約束を守ってよかったなあと思ったことがありましたか。
	C	友達の約束とテレビで迷ったけど，友達のところへ行ってよかった。
	C	
	T1	友達をずっと待っていて，来てくれてよかった。
	C	帰ればよかったのに，どうして待っていたの。
	C	嫌われると思って。
	C	野球とおばあちゃんとの約束。
	C	運動会に出たくなかったけど，お母さんとの約束を守って出たら楽しかった。
	T1	習い事で忘れ物をした時，取りに帰ってよかった。
	C	ごまかさなくてよかったことは？
	C	お兄ちゃんのお菓子をとってしまって，そのことを謝ったら許してくれたからよかった。
	C	地図を描くかどうか迷ったけど，描いてよかった。
	T1	お母さんにうそをついて，どうしようか迷ったけど謝った。 （教師の説話）先生もそういう体験があります。夏休みの作品展でお母さんにほとんどやってもらった作品が特賞に選ばれてしまいました。正直に先生に話して許してくださったので，よかったと思いました。

協議会記録

1　授業者より

○　友だちとの力関係で誠実でない場面が見られるようになってきたので，この題材を扱った。資料の内容理解をより確かなものにするために，デジパネを使用した。

○　葛藤場面で人数にバラつきがあった。

○　中心発問について迷った。

○　自分の生活について，振り返って本音を言うことはかなりできるので，大切にしていきたい。

○　T2より

・　資料を途中で切ることに抵抗があった。２組では，０対全員，１組では，１対２の割合になった。討論にはなりにくかった。結果がわかっていたので，このようになったのかもしれないと思い，３組では，切って提示することにした。

・　迷うことが大切なことではないかということで，ネームプレートは，あえて使わなかった。（１・２組では使ったが，あまり効果がなかった。）

・　場面状況の把握のためのおさえが，クラスの実態で必要だと思い，時間をとって板書したことが有効だった。

・　理解に時間がかかる児童が，自分の生活にかかわってよく発言するのが，この学級のよいところだと思う。

2　質疑・感想・意見

○　男の子のためではなく，自分が誠実であるために男の子のところへ行ったことが，子どもの中にグッとくる発問にしたほうがよかった。

・　ワークシートに記入する前に，もう少し中心発問になるような問いかけが必要だったかもしれない。

○　子どもの発言のゆれの中で，T2による大劇場へ行く側に立った発問が必要だったかもしれない。

○　子どものゆれからワークシートに記入させ，机間指導した後，講話で終わるという形にしてきたが，これでいいのかどうか。

○　ゆれのまとめ方・おとし方・整理の仕方が，課題である。

○　資料と実生活とのかかわりを持って考えることができるようにするには，どうすればよいか。

○　T1とT2とのかかわりが，すばらしい。デジパネが効果的だったが，文章資料のことばにかかわることも大切だと思う。資料を途中で切ったのは，よかった。同学年間での事前授業が研修に有効だと思う。

○　ワークシートで葛藤場面を取り入れてはどうか。

○　中学生になると，自分の意見を出しにくい状況にあるので，考えていかなければならない。

○　高校には，道徳がない。自分を振り返って，自分ならどうするかという視点で考えてみることはどうだろうか。

３　指導講話（石田指導主事・山田指導主事）

◎　授業にかかわって

○　[1－(4)]で指導する発問として,「受話器を置いた後の手品師の気持ちは？」が考えられる。

○　終わり方も，音楽を流しながら，手品をしている場面が考えられる。

○　「約束を守る」と「心がすっきりした」は,自己実現により,価値を知る。子ども　　に「心がすっきりした」を体感させる方法はなかなか難しい。教師の補足で,「すっきり」を知らせる。

○　個に応じた授業をするためのカルテのような授業だった。長期的に，総合的に，たくさんの先生たちとのかかわりの中で高めていく。担任（子どもを知っている）のする道徳に意義がある。

◎　まとめ

○　自己を振り返る（見つめる）　一般化する時間……展開後段

○　道徳の時間でいろいろな意見を聞きながら,「こういう意見もあるのか」「こういう考えもあるのか」と深めていく。

○　発表させることが自己を見つめることではない。そればかりしていると，建て前の道徳の時間になる。資料を読んでいる時もやりとりしている時も，自己を振り返ることができるような間・雰囲気をつくることが必要。

○　自分の思いが言える学級経営が基盤。

○　道徳教育=道徳性を養う。

（道徳的諸価値が，一人一人の中にいろんな組み合わせをつくる。）

道徳の時間=同じ一つの焦点を当てて学習する。

①　資料の分析……場面・人物・行為や言動（道徳的価値観）

②　中心発問　　・本時のねらいにせまる。

・時間をたっぷりとる。

③　基本の発問

④　子どもの意見を予想

⑤　補助発問・切り返しの発問　机の並べ方（コの字型）

⑥　子どもたちのかかわり合いの場面をつくる。

○　資料の分割

・　ねらいを明確に。自分はどうかを考える。行間を，自分の生活を見つめながら，考えることができるようにする。みんなが，同じ方にかたまることをねらう必要はない。

○　説話

・　子どもと共に授業をつくるためには大切だが，いつも担任に限らず，多数の教職員・保護者・地域の方の説話も効果的である。